

氏名	森岡 茂
授与した学位	博士
専攻分野の名称	医学
学位授与番号	博乙第2968号
学位授与の日付	平成8年 3月25日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 (学位規則第4条第2項該当)
学位論文題目	Changes in Plasma Concentration of Vitronectin in Patients with Diabetic Nephropathy (糖尿病性腎症患者における血漿中ビトロネクチン濃度の 変化)
論文審査委員	教授 辻 孝夫 教授 原田 実根 教授 大森 弘之

学位論文内容の要旨

糖尿病性腎症の進展過程におけるビトロネクチンの関与を検討するため、糖尿病患者と健常人の血漿ビトロネクチン濃度をEnzyme Linked Immunosorbent Assay (ELISA) 法により測定した。健常人16名とインスリン非依存型糖尿病患者59名を対象とし、糖尿病性腎症のステージをDN-0群(正常微量アルブミン尿群)、DN-1群(微量アルブミン尿群)、DN-2群(持続性蛋白尿群)、DN-3群(保存期腎不全群)、DN-4群(腎不全透析群)の5群に分けた。蛋白尿、尿中微量アルブミン濃度、尿中クレアチニンで補正した尿中アルブミンインデックス(mg/gCr)、血糖値、ヘモグロビンA1c、血清クレアチニン濃度、血小板数、血清補体価を血漿ビトロネクチン濃度と同時に測定し相関関係を検討した。血漿ビトロネクチン濃度は、DN-0群とDN-1群では健常人より有意に増加していた。しかし、DN-3群ではDN-0、DN-1、DN-2群と比較して有意に減少していた。さらにDN-4群では健常人と比較して有意に減少していた。血漿ビトロネクチン濃度と血清クレアチニン値の間に有意の負の相関が認められた。高血圧を有する糖尿病患者群においては、糖尿病性腎症の進行と共に血漿ビトロネクチン濃度が減少傾向を示した。血漿ビトロネクチン濃度は血小板数と有意の正の相関が認められた。血漿ビトロネクチン濃度は糖尿病罹病期間と有意の負の相関が認められた。血漿ビトロネクチン濃度とHbA1c、血糖値、血清補体価との間には相関は認められなかった。以上の結果より、血漿ビトロネクチン濃度は糖尿病の初期に増加し、糖尿病性腎症の進展と共に減少することが明らかになった。糖尿病初期の血漿ビトロネクチン濃度の増加は、活性化された血小板からビトロネクチンが放出されておこる可能性が考えられた。血漿ビトロネクチン濃度が減少するメカニズムには、動脈硬化の進行、腎障害、尿毒素が関与していると考えられた。以上の結果から、血漿ビトロネクチン濃度の測定は糖尿病性腎症の進展を把握するために有用であると考えられた。

なお、本論文は共著論文であり、共著者の協力を得て完成したものである。

論文審査結果の要旨

本研究は、糖尿病性腎症の進展過程におけるビトロネクチンの関与を検討するため、糖尿病患者と健常人の血漿ビトロネクチン濃度をEnzyme Linked Immunosorbent Assay(ELISA)法により測定したもので、健常人16名とインスリン非依存型糖尿病患者59名を対象としている。その結果、血漿ビトロネクチン濃度は糖尿病の初期に増加し、糖尿病性腎症の進展と共に減少することを明らかにしており、さらに高血圧合併症例での成績から動脈硬化の進行にも関与しているとの興味ある知見を得ている。

よって、本研究者は博士の学位(医学)を得る資格があると判断した。